

平成 22 年度岡山県環境保健センター試験研究課題中間評価票（課題 1）

番号	22-01	課題名	環境中の有害大気汚染物質に関する調査研究		
期間	H20~24年度	担当部課室	環境科学部 大気科	評価者	荻野、井上、 田口、徳丸、 根岸、野上、 山田

評価項目	評価の視点					評価結果
目標達成可能性	5：計画を大きく上回って進んでいる。 4：計画を上回って進んでいる。 3：計画どおりに進んでいる。 2：計画より遅れている。 1：計画より大幅に遅れており見直しが必要。					3. 3
	5：0	4：2	3：5	2：0	1：0	
目標達成可能性	5：障害要因はなく計画以上の成果と進捗が期待できる。 4：障害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3：障害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2：障害要因が発生している。 1：障害要因が発生しており見直しが必要。					3. 1
	5：0	4：1	3：6	2：0	1：0	
必要性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					4. 0
	5：1	4：5	3：1	2：0	1：0	
有効性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3. 6
	5：0	4：4	3：3	2：0	1：0	
効率性・妥当性	5：著しく効率的に実施できている。 4：効率的に実施できている。 3：計画どおりに実施できている。 2：課題が生じている。 1：課題が生じて見直しが必要。					3. 3
	5：0	4：2	3：5	2：0	1：0	
総合評価	5：優先的に継続することが適當。 4：継続することが適當。 3：計画変更して継続することが適當。 2：継続の必要性が低い。 1：中止すべきである。					3. 7
	5：0	4：5	3：2	2：0	1：0	

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

助言・指摘事項等

- ・PM2.5については、健康影響を評価する必要性が高まっており、環境省が実施する全国レベルでの調査と連携しながら、人の健康や疾病の発生との相関がはかれるように疫学的調査と合わせた調査研究の継続が必要と考える。
- ・測定地点については、従来の測定点に加え、県民の生活空間と密接し、予想される発生源に応じた地点を加え、また、PM2.5中に含まれるイオン成分だけでなく、人の健康に影響を及ぼす可能性のある大気汚染物質や炭素成分も定量していく必要がある。
- ・今後、研究の方法、データの採取、蓄積の方法など、よく内外で検討を重ねて方向性を定めるとともに、県民に向けた判りやすい情報発信を期待する。

平成 22 年度岡山県環境保健センター試験研究課題中間評価票（課題 2）

番号	22-02	課題名	児島湖に関する調査研究		
期間	H20～24年度	担当部課室	環境科学部	水質科	評価者
					荻野、井上、 田口、徳丸、 根岸、野上、 山田

評価項目	評価の視点					評価結果
目標達成可能性	5：計画を大きく上回って進んでいる。 4：計画を上回って進んでいる。 3：計画どおりに進んでいる。 2：計画より遅れている。 1：計画より大幅に遅れており見直しが必要。					3. 3
	5：0	4：2	3：5	2：0	1：0	
必要性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3. 3
	5：0	4：1	3：5	2：1	1：0	
有効性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3. 1
	5：0	4：2	3：4	2：1	1：0	
効率性・妥当性	5：著しく効率的に実施できている。 4：効率的に実施できている。 3：計画どおりに実施できている。 2：課題が生じている。 1：課題が生じて見直しが必要。					3. 3
	5：0	4：2	3：5	2：0	1：0	
総合評価	5：優先的に継続することが適當。 4：継続することが適當。 3：計画変更して継続することが適當。 2：継続の必要性が低い。 1：中止すべきである。					3. 9
	5：0	4：6	3：1	2：0	1：0	

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

<p>助言・指摘事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児島湖の環境改善について目標をより明確にして、全体像の解明に向けた研究を推進し、その成果を活用することが重要であり、調査研究の継続が必要と考える。今後、研究目標及び成果を県民へ向けてより分かりやすく情報発信して欲しい。 ・ 過去のデータを整理し包括的に分析するとともに、難分解性有機物質除去における貝類の寄与、備讃瀬戸の水質への児島湖の寄与など、3つのサブテーマを具体的に関連させた研究を行っていくことが必要と考える。また、のりの色落ち問題など備讃瀬戸海域も含めて児島湖全体の生態系バランスを統括的に保てるように、水産等の関係部署との連携を密にして重複のない効率的な調査研究を進められたい。 ・ さらに、貝類を利用した水質浄化の研究は、実用化する場合の排泄物の影響を検討するとともに、環境対策に役立てるための将来ビジョンも必要と考える。

平成 22 年度岡山県環境保健センター試験研究課題中間評価票（課題 3）

番号	22-05	課題名	岡山県における食中毒および感染症起因菌の疫学的解析		
期間	H20～24年度	担当部課室	保健科学部 細菌科	評価者	荻野、井上、 田口、徳丸、 根岸、野上、 山田

評価項目	評価の視点	評価結果
目標達成可能性	5：計画を大きく上回って進んでいる。 4：計画を上回って進んでいる。 3：計画どおりに進んでいる。 2：計画より遅れている。 1：計画より大幅に遅れており見直しが必要。	3. 3
	5：0 4：2 3：5 2：0 1：0	
目標達成可能性	5：阻害要因はなく計画以上の成果と進捗が期待できる。 4：阻害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3：阻害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2：阻害要因が発生している。 1：阻害要因が発生しており見直しが必要。	3. 3
	5：0 4：2 3：5 2：0 1：0	
必要性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。	3. 9
	5：1 4：4 3：2 2：0 1：0	
有効性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。	3. 6
	5：0 4：4 3：3 2：0 1：0	
効率性・妥当性	5：著しく効率的に実施できている。 4：効率的に実施できている。 3：計画どおりに実施できている。 2：課題が生じている。 1：課題が生じて見直しが必要。	3. 3
	5：0 4：2 3：5 2：0 1：0	
総合評価	5：優先的に継続することが適當。 4：継続することが適當。 3：計画変更して継続することが適當。 2：継続の必要性が低い。 1：中止すべきである。	4. 1
	5：1 4：6 3：0 2：0 1：0	

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

<p>助言・指摘事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症のアウトブレイクを想定した、「平時」の備え、技術水準の維持・向上という視点から、研究の必要性は高まる傾向にあり、大規模な食中毒発生時や新しい細菌の流行に迅速な対応ができるように、精度管理と併せて研究の継続が必要と考える。 ・さらに、本研究により、食中毒や感染症の感染源・感染経路の特定、さらに予防対策の進展が期待され、また、簡便で正確な検査法の確立による他県との幅広いデータの共有化が望まれる。 ・食の安全にかかわる、行政が担うべき重要な研究であり、保健所との連携を進め、より効率的な研究を進めるとともに、専門家に対する研究成果の説明資料に加えて、今後は県民へ向けた判りやすい情報発信を期待する。

平成22年度岡山県環境保健センター試験研究課題中間評価票（課題4）

番号	22-06	課題名	結核の分子疫学的研究		
期間	H20～24年度	担当部課室	保健科学部	細菌科	評価者
					荻野、井上、 田口、徳丸、 根岸、野上、 山田

評価項目	評価の視点					評価結果
目標達成可能性	5：計画を大きく上回って進んでいる。 4：計画を上回って進んでいる。 3：計画どおりに進んでいる。 2：計画より遅れている。 1：計画より大幅に遅れており見直しが必要。					3. 3
	5：0	4：2	3：5	2：0	1：0	
目標達成可能性	5：阻害要因はなく計画以上の成果と進捗が期待できる。 4：阻害要因はなく計画以上の成果が期待できる。 3：阻害要因はなく計画どおりの進捗が見込まれる。 2：阻害要因が発生している。 1：阻害要因が発生しており見直しが必要。					3. 1
	5：0	4：2	3：4	2：1	1：0	
必要性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					3. 6
	5：0	4：4	3：3	2：0	1：0	
有効性	5：著しく高まっている。 4：高まる傾向にある。 3：変化していない。 2：減少傾向にある。 1：著しく減少又は認められなくなっている。					4. 0
	5：0	4：7	3：0	2：0	1：0	
効率性・妥当性	5：著しく効率的に実施できている。 4：効率的に実施できている。 3：計画どおりに実施できている。 2：課題が生じている。 1：課題が生じて見直しが必要。					3. 3
	5：0	4：3	3：3	2：1	1：0	
総合評価	5：優先的に継続することが適當。 4：継続することが適當。 3：計画変更して継続することが適當。 2：継続の必要性が低い。 1：中止すべきである。					4. 3
	5：2	4：5	3：0	2：0	1：0	

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

<p>助言・指摘事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> 結核は我が国最大の感染症の一つであり、結核予防は重要なテーマとなっている。感染者が恒常的に存在するので、感染菌を解析したデータベースの蓄積は非常に重要で必要性が高く、地方機関による先進的な調査研究として継続が必要と考える。継続することにより意味（有効性）があり、安定した菌の入手ルートの確立に努められたい。 また、感染源を特定するためには、保健所で把握した患者データや感染者の動向調査などの個人情報をデータベースに含めることが必要であり、そのためには、行政のバックアップが重要と考える データベース確保のため、有意義なデータとなるよう検討を加えるとともに、専門誌や学会等の発表に加え、県民への判りやすい情報発信に努めてほしい。
--